

第1回 積雪寒冷地における道路舗装の長寿命化と

予防保全に関する検討委員会

議事概要

■ 第1回検討会：令和3年12月7日

【議題】

- ・積雪寒冷地における道路舗装の現状と課題
- ・舗装に関する情報提供について
- ・今後の検討方針について

【議事概要】

○事務局より積雪寒冷地における道路舗装の現状と課題、舗装技術に関する情報提供、今後の検討方針について報告があり、以下を確認した。

◇積雪寒冷地における道路舗装の現状と課題

- ・融雪期のポットホール増加等は、積雪寒冷地特有の課題である。
- ・国道だけではなく道道や市道等も同様な課題がある。
- ・凍結融解で促進されているなら、温度変化に強い舗装が有効となる可能性がある。
- ・舗装自体が老朽化している事も原因の一つであるが、全ての箇所を路床から補修することは困難なため、少しでも長寿命化につながるような技術を北海道で実践していく必要がある。
- ・ポットホールを発生前にA Iで判別が可能となれば、予防保全につながる可能性がある。

◇舗装に関する情報提供について

- ・融雪水、凍結融解、ひび割れの有無、荷重等の複合要因で劣化するため、要因分析を行って対策の優先度をつけることも効果的。
- ・断熱工法について情報提供があったが、凍上抑制層の材料や設計の考え方も併せて検討していく事が有効。
- ・最新の技術(A I)を活用した舗装点検・診断について、産学官で連携し、北海道内全ての道路において早期に実用化に向けた検討を行う必要がある。

◇今後の検討方針について

- ・積雪寒冷地における新たな舗装技術について以下の3本柱として検討を進めていく。
 1. 耐久性の高い舗装を設計・施工する技術
 2. 効率的な点検・診断技術
 3. 効果的な補修技術
- ・各舗装技術についてロードマップを作成し、民間で検討している様々な材料や施工方法等の試験フィールドとして検証できる現場を道路管理者から提供していく。
- ・積雪寒冷地である北海道で通用する舗装技術は世界でも通用するので、そのような発信元になればと考えている。

以上